

特定非営利活動法人 さかいhill-front forum (堺市登美丘地区防犯委員会)
(大阪府堺市登美丘地区)

1. 活動の背景

(1) 地区の概要

地区の状況

大阪府堺市の中央東部に位置する登美丘地区での防犯活動は、4つの自治連合会、計101の町会から構成され、南海高野線北野田駅周辺約5km四方の範囲には人口が約4万2500人あります。

地区内は、昭和初期に計画的に開発された良好な住宅地と歴史ある古い町並みも共存し、水辺空間も豊かで自然も豊富です。一部に旧街道の面影を残しています。現在、南海高野線北野田駅前では、近隣市町を含む市東南部地域の核として発展することをめざして市街地再開発事業が進んでおり、「さかい hill-front forum」が運営する堺市立東文化会館もこの中にあります。

犯罪の状況

登美丘地区は閑静な住宅地ですが、ひったくりや不法侵入、痴漢、車上狙い、自販機狙いが頻発するなど、治安の悪化が問題となっていました。特に、幅員4mの伊勢道は「ひったくり街道」と呼ばれるほど、ひったくりが多く発生していました。ここに、地元の有志で最初に「センサーライト」を設置したことなどによって、近年被害件数が大幅に減少しているとのこと。

黒山警察署管内では2001年に82件、2002年に69件あったひったくり件数が、2003年には26件となっています。



(2) 活動の動機と経緯

動機

登美丘地区にある伊勢道(幅員4m)の約1kmの区間は、「ひったくり街道」と呼ばれるほどひったくり事件が多く、年間10件前後発生していました。一方、登美丘北公園では少年達が深夜にたむろして、花火をして騒いだりごみを散らかしたりするなどしていたため、周辺住民から苦情が寄せられていました。

こうした中2002年度、登美丘地区防犯委員会委員長の池崎氏がこの「ひったくり街道」に、住民の自費で「センサーライト」を設置したり、登美丘北公園対策会議を開催し(約100名が参加)、その日のうちに現地の夜間パトロールを実施(約120名が参加。警察も約10名参加)するなど、すぐに行動に移しました。こうしたことがきっかけとなり、登美丘地区での防犯活動が活発になったといわれています。

経緯

2002年のセンサーライトの設置や公園周辺のパトロールの実施後、その年のうちに「登美丘ヤングサポート隊」「とみおか防犯女性の会」「とみおか防犯安全隊」など、世代を越えた、また女性の防犯活動の部会を発足させ、大小の防犯活動が展開していきました。登美丘地区防犯委員会としての活動は、規模の小さな自治会単位では比較的早い段階で防犯活動にまとまりができ、徐々に連合会レベルの広域な活動に広がっていきました。

その後、2005年4月、北野田駅前にできた「東文化会館」の管理運営組織として「特定非営利活動法人 さかいhill-front forum」が発足しました。このNPO法人には、約1000の方が参加されていますが、これまでの登美丘地区防犯委員会としての防犯活動を行っているメンバーが多く含まれています。NPOとしても、防犯活動を事業活動の柱の一つとして掲げ、「防犯委員会」と一体となって活動が展開されています。

表：活動経緯

2002(平成14)年度	リーダー的存在の池崎氏、登美丘地区防犯委員会委員長となる
2002(平成14)年5月	センサーライトの設置 ひたたくり多発地域の伊勢道の街道筋に「街頭犯罪防止モデル地区」を設定し、「センサーライト」設置(当初住民負担。2004年7月末現在、144基設置)
2002(平成14)年6月	登美丘北公園での青少年たむろと深夜までの騒音等が問題化
2002(平成14)年7月6日	登美丘北公園対策会議 (警察と住民の意見交換会) 防犯女性の会発足の提案(約100名参加)。現状の把握と対応策の検討。 その日の夜、すぐに夜間パトロールを実施(120名参加)
2002(平成14)年7月	登美丘ヤングサポート隊結成 (隊長：山中氏、隊員約40名)
2002(平成14)年8月	とみおか防犯女性の会発足 (会長代行：山敷氏 会員約40名)
2004(平成16)年1月	とみおか防犯安全隊発足 (隊長：速見氏、隊員約20名)
2005(平成17)年6月~	こどもたちの見守り 毎朝こどもたちの通学の見守り、合同パトロール時に約8箇所(箇所)に防犯腕章をつけ、数人ずつ人を配置(パトロールは約200人で実施)
2005(平成17)年4月	特定非営利活動法人さかいhill-front forum 発足 市からの要請もあり、東文化会館の運営組織として発足。活動内容に地域安全活動も盛り込まれる。

2. 活動の目的・内容

(1) 活動の目的

登美丘地区防犯委員会では、「犯罪が起こらないまち」を活動目標に掲げています。ハード面の照明設置・整備、パトロール活動によるソフト面の活動を対症療法的に行っていますが、一方で、犯罪そのものの発生をなくすための根本的解決策にも目を向け、様々な部会を組織して、大勢の人が防犯活動に参加できるような環境をつくっています。

また、定例活動以外でも、問題が発生した時にはただちに行動を起こすことを活動理念としています。

- 目標：「犯罪が起こらないまち」
- 活動の3本柱
 - ハード面：照明設置・Nコードを活用したシステムの構築(対症療法)
 - ソフト面：パトロール活動・定点での警戒啓発活動(対症療法)
 - ヤングサポート隊、防犯女性の会、学校等各機関との連携(根本治療)

(2) 活動内容

合同パトロールの実施

毎月第2水曜日に定例会、月1,2回、「合同パトロール」を実施しています。この活動は防犯活動を地域全ての人に知ってもらいたいということや、参加することによって犯罪の発生をなくしていくことにもつながるため、多くの人の参加をめざしています。このため、10代の若者から高齢者まで毎回100人～300人が参加するこの団体の最も大規模なものであり、今では地域の風物詩にもなっています。

活動行程：最初に全体会合を30分行い、その後、20：00から約1時間半、北野田駅周辺を重点にパトロールをします。

活動開始にあたって：一ヶ月に約40回の会議、15回くらいのパトロールを行い、価値観の共有を図ったとのこと。

参加の呼びかけ方：初期の参加の呼びかけは、池崎氏が約200名の方一人一人に電話をかけて頼まれたとのこと。ただし無理に参加を促すことはせず、「もし都合がよければ参加していただけますか。」というやわらかい口調で呼びかけを繰り返し、約1年かけてようやく活動が定着していきました。

パトロールのコース：コースは固定せず、活動当日に決定しています。

効果：「大阪府安全なまちづくり」ホームページによれば、合同パトロールを開始してからは、以前に比べひったくりが7割近くも減少しているとのこと。

合同パトロールの風景
(写真提供：池崎氏)



合同パトロールの案内(左)と日程表(右)

平成17年度 豊美丘地区防犯委員会

合同パトロール 日程表

毎月第2水曜日 夜7時30分集合

集合場所：主に図書館豊美丘分館(旧豊美丘出張所)跡地

午後7時30分～午後8時頃 月に1度の全体会合・・・意見交換
午後8時から約1時間程度、北野田駅周辺を重点にパトロールします。
近道往復の徒歩より、ご協力いただけるお車をお借りいただけます。
女性団体・婦人会・老人会、若年層有志会等の皆様、そして学校関係の皆様にも大歓迎に加入していただければ、くれぐれもご参加をお願いします。

※豊美丘地区防犯委員会 活動日以外パトロールの開催もしています。

日 時	集合場所	備 考
6月 8日(水)	総合 豊美丘美小中学校	豊美丘地区防犯委員会発足
7月19日(水)	合同 図書館跡地	各校区に中学校と連携して取り組む
8月10日(水)	合同 図書館跡地	
9月14日(水)	合同 図書館跡地	
10月12日(水)	合同 図書館跡地	
11月9日(水)	合同 図書館跡地	
12月14日(水)	合同 図書館跡地	
12月27日(水)	合同 第一中学校	各校区にて学校が連携を持って取り組む
平成18年1月31日(水)	合同 豊美丘自治会館	
2月8日(水)	合同 図書館跡地	
3月5日(水)	合同 図書館跡地	
4月12日(水)	合同 豊美丘自治会館	
5月10日(水)	休会 4月に案内	

合同パトロール終了時の防犯の集大成に「防犯活動の記録」・・・豊美丘地区防犯委員会にて合同パトロール14回に各校区より「防犯活動の記録」を作成し、掲載していただく。発行でもお返しします。印刷費用と集成費におおねがひください。

平成17年度の取り組み(重点目標)

1. 安全安心ステーションモデル事業に豊美丘地区防犯委員会が選ばれました。
2. Nコード(堺市警察創造センター)との連携の構築。100名以上の防犯ボランティアの育成。
3. 松下電工と共同して期間からの防犯ボランティアの育成。また、豊美丘地区防犯委員会として、各校区に防犯ボランティアを育成し、活動の場を確保しています。毎週で活動の場を確保し、活動の場を確保しています。

小規模パトロールの実施

防犯委員、青少年指導委員を中心に、小規模なパトロールを各地域で週1回程度実施しています。

防犯安全隊と立ち番

毎月第3土曜日に、NPOが管理運営する東文化会館に集まり、情報交換や活動方針について議論を行っています。メンバーは、隊長の速見氏をはじめ、地元自治会の人も参加し約20名います。ひったくりの多い西除川改進黨他数箇所では年中夜7時から11時まで、また、毎朝通学路の立ち番をされているとのこと。

登美丘ヤングサポート隊

「若者の目線に立つ、世代間をつなぐ」ことを目的に、若いメンバーで構成されています。隊長は山中氏で、メンバーは約40名で構成されています。

とみおか防犯女性の会

女性の視点から防犯活動をするため結成され、パトロールなどを行っています。

センサーライトの設置

2002年にひったくり犯罪の多い伊勢道を「街頭犯罪防止モデル地区」に指定し、住民負担(約40万円)でセンサーライトを設置しました。その後、別の地区でも設置する動きがみられました。こうした実績が認められ、同10月、堺市が府の補助金を活用して「街頭犯罪防止対策地域支援事業」を創設し、設置数が増加しました。2003年7月末現在、登美丘地区では計144基が設置されています。

センサーライトの設置後、ひったくり事件は激減し、最近4年間はひったくりの発生がゼロです。

子供たちの見守り活動

登美丘東校区をモデルとして取り組み、登校時には通学路15箇所(60名)を立ち番、下校時には、老人会を中心に通学路のパトロールを行っています。今は登美丘全体に広がっています。学校との協力で大きく広がりました。

ひったくり防止キャンペーン

大阪府が全国ワースト1位だったひったくりを半分にしようという動きの中で生まれました。毎月11日にひったくり防止カバーやティッシュを駅で配布しています。



上：センサーライト 下：活動前の会合

3 . 組織の運営

「登美丘地区防犯委員会」および「さかいhill-front forum」では、地元自治会・連合会組織活動と密接な関係を持っています。

(1) 連携・協力メンバー

さかいhill-front forum

活動の核になっているのが 31 名の理事、監事 1 名であり、NPO 会員は約 1000 名います。防犯委員会のメンバーとはかなり重複した構成となっています。池崎守氏は、「さかいhill-front forum」の副理事長、「登美丘地区防犯委員会」の委員長の他、黒山防犯協議会会長、大阪府防犯協会連合会理事も務めていらっしゃいます。

さかいhill-front forum 運営概要

- ・会費：正会員および活動会員は入会金・年会費とも無料。賛助会員は入会金、年会費共 1 万円。
- ・事業規模：収入・支出、約 2700 万円
(収入は、市からの文化施設委託料約 1600 万円、使用料金等約 1100 万円。支出は、人件費約 1000 万円、管理費約 1700 万円)

登美丘地区防犯委員会

公立中学校 2 校・小学校 4 校の区域を範囲とし、区域内の 4 自治連合会の防犯委員は 325 名に上ります。防犯委員は毎年入れ替わるため、防犯活動を経験する人が毎年増えているとのこと。また、青少年指導委員会(4 校区)、婦人会・女性団体(4 校区)、登美丘ヤングサポート隊、とみおか防犯女性の会、とみおか防犯安全隊などの部会が力を合わせて活動しています。

登美丘地区防犯委員会構成概要

防犯委員：325 名 (H16.6.1 現在)

- ・登美丘東：23 町会、71 名
- ・登美丘西：33 町会、82 名
- ・登美丘南：26 町会、81 名
- ・登美丘東：19 町会、91 名

合同パトロール活動参加数：約 100 人～300 (最大 400) 人

行政

大阪府生活文化部、堺市市民人権局市民生活部・東区役所が防犯活動の窓口となって連携が図られていますが、基本的には地域のことを最もよく知っている市民がなにをすべきかを考え、それを行政が支援する、というスタンスをとっています。2003 年、2004 年には大阪府・堺市の補助事業により、センサーライト設置の支援を受けました。

大阪府黒山警察署

地域の防犯に関する相談や「やんちゃな」若者と一緒に向き合うことへの協力が始まり、合同パトロールに同行するなど、様々な地域の防犯活動と協力・連携が図られています。

4 . 活動の特徴・ポイント

「あまり組織・権限をつくらない」、「まずはやってみる」という活動の姿勢によって、多くの参加と様々な主体が連携して活動が継続している

防犯活動の形態は、多少の失敗は恐れず必要と思うことは実施し、「まずはやってみて、共感が得られなければやめればよい」と考えて取り組まれてきました。また、組織を継続させるため、活動は出入り自由であまりきっちりとしなない、また権限をもたないようになっているとのことです。

この結果、防犯委員を中心とした住民自らの小規模パトロールの実施(週1回程度)、防犯安全隊の毎日の警戒啓発活動、「若者の目線、世代間をつなぐ」青少年中心の「登美丘ヤングサポート隊」の結成、女性による「とみおか防犯女性の会」の結成等、新たな活動単位が次々と生まれています。さらに、それぞれの活動は自由度が許容されているので裾野も広がり、合同パトロールのような全体活動とも連携が図られています。このようにうまくいくのは、個々の活動の自由度を許容することで厚い人望も集めているリーダー池崎氏の存在が大きいと考えられます。

ハードのみに頼らない意識で活動(「センサーライト」は防犯活動のシンボルにすぎない)

防犯活動当初は、「センサーライト」というハードの設備を設置されました。しかし、これのみに頼ることはせず、これによって得られる防犯の抑止効果よりも、防犯まちづくりの輪を広げていく「シンボルにすぎない」と自覚して活動が行われています。

人を育てる活動(青少年を健全育成し、更正を促す)

ヤングサポート隊には、「やんちゃ」な若者にも活動への参加を呼びかけています。全ての世代の住民と一緒に活動することで、地域の人と人のつながりを深め共にまちづくりを進めていこうとしています。最初から全て厳しく律することはせずに、「多少のことは大目にみる」という寛大さを持って活動全体が動いています。こうした姿勢が、青少年を健全に育成したり、活動の輪が大きく広がっている要素とも考えられます。

「活動にとりくんだ結果、どうなるか」を考える意識が重要

活動リーダーの池崎氏によれば、「防犯活動といっても防犯のためだけではなく、人と人の心をつなぎ力を結集して理想とする社会を人の力で実現したいと思っている。」とのことです。また、「地域活動で大事なものは、発言できない大多数の住民が何を考えているかではないか。100人いれば、2人は賛成、2人は反対し、残りの96人は無言であったり無関心であったりする。その方々をどうつなぐか考えたい。」「(物事の価値は)一生懸命取り組んでいる、応援してくれる人の気持ちが一番大事であり、(参加数や効果といった、数字的なものではなく)とりくんでいる心自体を評価してくれることが一番の元気になる。」とおっしゃっています。池崎氏は、こうして取り組んだことを通じて、様々な方と親しくなれたことに価値を見出しているとのことです。

「まちづくりの一環」としての防犯活動

活動リーダーの池崎氏は、「防犯活動はあくまでまちづくりの一環」と話されます。年間に受ける相談件数が約1500件というほど、あらゆることに対応しています。このように、防犯だけに特化することなく、まち全体や地域で生活する中の一部として防犯活動にとりくむことが、多くの参加者に結びつく信頼にもなり、多岐に渡る活動展開を可能としていると考えられます。「警察・行政・住民との三者協働による活動が何よりも大切だ」と話されています。

5. 活動の課題、今後の展開など

無理のない活動による安全で安心な社会の実現

理想に向かって現状はまだまだ厳しいと感じられています。また、みなさんが忙しい中、継続した活動をいかに無理なく楽しく行っていくか。若い世代・子どもも含めてもっとおおらかであっても安全で安心な社会をどう作るのか。活動の課題は多いとのことです。

地道な活動の継続と新しい技術の活用

とりくんでいる種々の活動を継続し、少しでも多くの住民に参加していただけることを目標にされています。また、平成17年1月22日に防犯・防災まちづくりの一環でNコード(位置コード)による安全まちづくりシステムの実証実験を開催され、先端技術を使ったシステムを提案していく準備をしています。また、青色パトロールカーも7月より毎朝晩稼働させるとのことです。

NPO活動メンバーからのメッセージ

活動を通して本当に多くの方と知り合うことができました。人として生活している中で何よりも嬉しく感じています。防犯活動はどの地域でも等しく関心の高い活動だと感じています。まず声をかけることにより人と人の輪が大きく広がるように思います。理想は大きく、しかし身近にできることをひとつでも実現できれば、また、実現できた喜びを少しでも多くの人と共有できれば・・・そういう気持ちで活動しています。人は人との関わりの中で生きています。犯罪は人が起こすもので、犯罪がまったくない社会を目指したいと考えています。しかし、一番難しいのがまた人との関わりと感じます。特に各団体の連携と言葉では簡単にいえますがなかなか困難です。しかし、説いて止まない姿勢を貫き、多くの人に支えられている感動を素直に喜び、地域の小さな活動ではありますが、共に歩んで温かいまちづくりを実現したいと思います。皆様のご指導お願い申し上げます。

(NPO法人さかいhill-front forum 副理事長 池崎守氏)

